

介護人材の確保・定着に向けた法人としての取り組み

【結婚・出産・育児を経ても働き続けるための取り組み】

職員のニーズに合わせた柔軟な制度設計で 働きやすい職場づくりを

医療法人社団 三成会 [須賀川市]

取り組みのきっかけに なったこと

働き続けることへの不安の声を 受け、プロジェクトチームを発足



介護老人保健施設
南東北春日リハビリテーション・ケアセンター
事務局長 中村喜美子さん(写真中央)
事務長 小貫聖二さん(写真右)
介護福祉士 古内友幸さん(写真左)

介護老人保健施設 南東北春日リハビリテーション・ケアセンターは、平成16年に定員100名のユニットケア施設として開所しました。「開所から5年が経過した時に、職員一人一人と面談を行い、現在の職場環境や仕事についての意見を集めました」と小貫事務長は話します。若い女性職員から、将来子どもを育てながら仕事を続けることができるか不安という声が多数上がったことを受け、仕事と子育てを両立できる環境づくりに向けてプロジェクトチームを立ち上げました。

取組んだ内容

職員の困っていることに応えるため 少しずつ就業規則を整備していった

チームメンバーで話し合いを重ねた結果、子どもの通院や学校行事に合わせて取得できるよう、短時間の有給休暇を望む声が多いことが分かりました。そこで1日単位から1時間単位で取得できるよう就業規則を改定しました。

「開所時に作った就業規則は一般的なもので、当施設の現状には合っていないことが分かりました。職員が困っていること一つひとつに応えながら就業規則を変えていくことが、法人に求められていると感じました」と中村事務局長。同法人では、働きやすい環境を作ることにより、職員がその能力を十分発揮できる法人となるよう取り組むとしており、女性の育休取得率は100%となっています。短時間勤務制度や所定外労働^{*}の免除の対象を小学校就学前まで(法律では3歳未満)拡大などに努め、平成22年には福島県ワークバランス大賞、平成24年には子育てサポート企業の認証(くるみん)を受けています。

男性の育児休業の取得実績があることも特徴の一つで、現在では1~3か月の育児休業を取得しています。「育休を取りたい気持ちはあっても、給与面での不安もありました」と話すのは、自身も2回取得したという古内さん。1か月目に基本給全額を支給する育児休職支援手当制度により不安が解消さ

^{*}所定外労働…法人で定める勤務時間を超えて労働した時間のこと。例えば、10時から17時勤務の場合、17時以降に労働すること。

働きやすい職場づくりの流れ

開所から5年後に、職員一人一人と面談して
職場環境や仕事に対する意見を集める

若い女性職員を中心に、子育てと仕事の両立
についての不安が上がり、プロジェクトチ
ームを発足させて、現在の就業規則に何が不足
しているかの話し合いを重ねる

出てきた要望や意見

子どもの通院などに使える短
時間の有給休暇がほしい

1時間単位で取得できるよう
改定

男性も育児休業を取りやすい環境に

育児休職支援手当制度を設け、1か月目に基本
給全額を支給

男性の取得者が増える など

れたといえます。役職者から積極的に取得することで後輩職員も取りやすくなり、育児に参加しようと男性の取得者も増えていきます。また育休を通して、仕事内容の見直しや効率化を図るなど業務改善のきっかけになったと古内さん。後輩職員に仕事を任せただけでその職員の成長に繋がることに気づき、改めて任せることの大切さを感じたそう。「妻から大変なときに休みをとってもらえてよかったと感謝されました。積極的に育児に参加することで、子どもへの愛情が一層増えたのはもちろん、仕事へのモチベーションが高まりました」と話します。

通常業務やサークル活動などで職員間のコミュニケーションが積極的に行われていることから、子育てや介護等のための休暇が必要になったときは、お互いにフォローしあうという「お互い様」の精神が浸透しています。

こうした働きやすい職場環境を整えたことで、子育て世代の求職者から応募があったほか、離職率が3~5%と成果が表れています。



若いスタッフが多いのでサークル活動も盛ん。バレー、パスケ、自転車、卓球、マラソン、よここいなどがあり、福利厚生だけでなく、コミュニケーションの醸成にも一役買っています



今年度は実施できませんでしたが、法人全体で運動会や球技大会などのイベントを行っており、コミュニケーションが図られています



改善後の職場の様子

新たに健康経営にも取り組み、子育てと 健康の両輪を支援して長く働ける職場に

同法人では年1回行う職員満足度アンケートからその時々課題を吸い上げて、必要に応じて委員会を立ち上げるなど柔軟に対応しています。職員の平均年齢の上昇に伴い、生活習慣病や腰痛を予防する重要性を感じたため、令和2年には新たに『健康推進委員会』を立ち上げました。「健康で長く仕事を続けていくには健康経営^{*}の推進が不可欠」と小貫事務長は話します。

今後も子育て支援は継続しつつ、健康に配慮した働き方を推進していきたいと中村事務局長。「職員一人ひとりが健康でないと、会社も元気になりませんから」と、新たな取り組みへの意欲を見せていました。



新たに立ち上がった健康推進委員会では、5年計画で健康経営の推進を目指しています

^{*}健康経営…従業員の健康増進を重視し、健康管理を経営課題として捉え、その実践を図ることで従業員の健康の維持・増進と会社の生産性向上を目指す経営手法のこと。



医療法人社団 三成会
介護老人保健施設 南東北春日リハビリ
テーション・ケアセンター
須賀川市南上町123-1 TEL0248-63-7299
<http://www.kasuga-rehabili.com>

【関連施設】

- 南東北春日リハビリテーション病院
- 南東北春日居宅介護支援事業所
- 南東北春日訪問看護ステーション
- 南東北春日居宅介護支援センター
- 南東北春日訪問リハビリテーション
- 南東北春日デイサービス
- メディカルフィットネス さくら
- 通所介護事業所
南東北春日春日リハデイ石川(石川町)